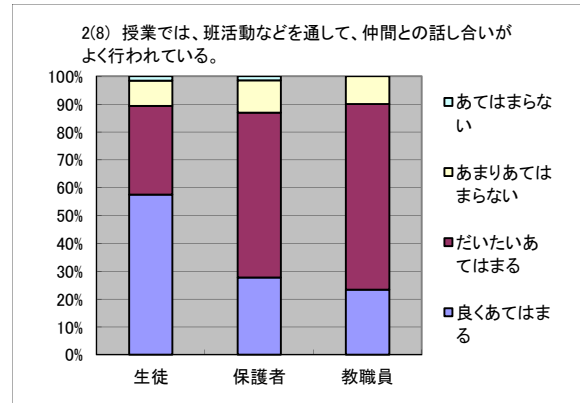
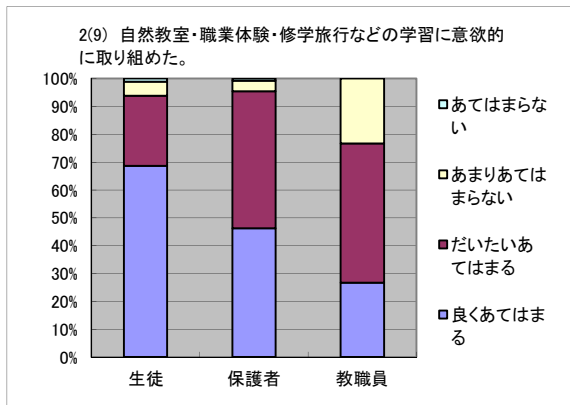


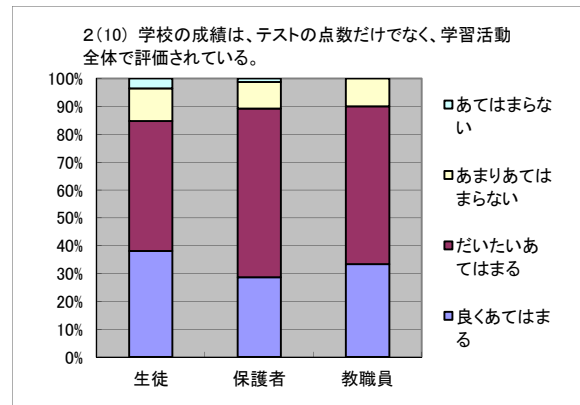
多くの生徒が、TTによる授業の方が先生と関わり合える機会が多いと回答していて、昨年度よりわずかに増えている。(保護者はわずかに減っている)TTや少人数の授業を継続して、更に効果的な授業ができる様に工夫をしていきたい。



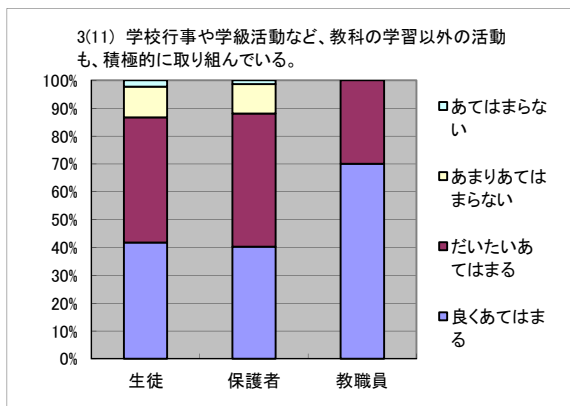
三者ともほぼ変わらず、授業で話し合い活動を実感している、という結果となった。特に、班活動などを通した仲間との話し合いの機会を実感することができている。授業内での話し合い活動を今後も継続し、大切にしていきたい。また、より効果的な学習のあり方について、教職員が研修できる場を設けていきたい。



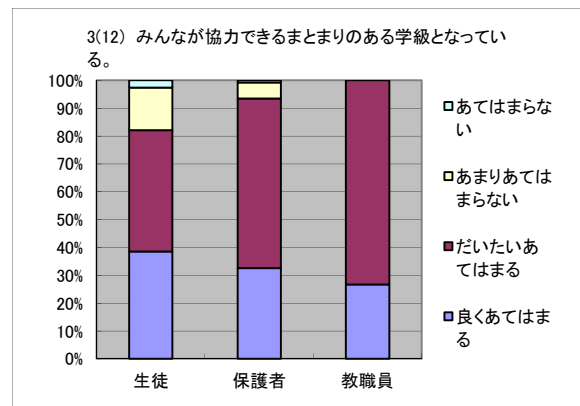
生徒の9割以上が意欲を持って取り組んでいる。保護者の意見も生徒と同様に9割以上が高く評価をしている。しかし、教職員の評価では、生徒、保護者ほど高くはないところから。生徒がさらに主体的に取り組めるような手立てをすすめていく必要があると考えられる。



生徒の約8割以上が「あてはまる」としている。これらのことから、生徒は、様々な学習活動の場で評価されていることを理解している。保護者はよりこれを評価している。教職員は、昨年度よりもかなり高くなっている。今後も、各学年・教科で評価方法を明示していく必要がある。



全ての学年において8割以上が「あてはまる」と答えている。生徒主体となった学校行事の運営が定着していると考えられる。保護者も約9割近くあり、昨年とほぼ同じ結果であった。引き続き、PTA行事や学校開放期間を通し、保護者に生徒の積極的な活動の様子を見てほしい。



生徒の8割以上が「あてはまる」と答えており、昨年より、生徒は協力できると感じている割合が増えている。教職員のきめ細やかな指導が行き届いてきた結果があらわれてきている。保護者についても、昨年度と比べ、「あてはまる」と答えた割合が増えており、生徒を通して学校活動が理解されていると評価できる。